

データベースを製品開発、人材育成に活用 生産性向上で働き方改革を行うモデル企業

工業用ヒーターの設計・製造・販売を行うものづくり企業。シーズヒーターを中心に多品種小ロットのオーダーに対応し、利用特性に応じて最適なヒーターを短納期、低コスト、高品質で提供。産業機器の熱源、ダクトヒーターや暖房機の気体の加熱、水や油の液体の加熱等、幅広い分野で利用されている。平成20年5月から国立大学法人福井大学とシーズヒーターの絶縁材開発に着手。5年の歳月を掛け世界初となる新絶縁材開発に成功し特許を取得。新たな需要開拓と付加価値の創造に取り組む。

- | | | | |
|----------|---|--------|---------|
| ● 所在地 | 福井県三方郡美浜町佐柿57号16 | ● 設立 | 1971年 |
| ● 電話/FAX | 0770-32-0258/0770-32-1177 | ● 資本金 | 1,000万円 |
| ● URL | http://www.hokuriku-heating.com/ | ● 従業員数 | 25人 |
| ● 代表者 | 代表取締役 増田 勉 | | |



生産性向上

設計・製造プロセスのデータベース化で付加価値を向上

同社では、一品一様のシーズヒーターを「高品質」「低価格」「短納期」で提供するため、設計データ、圧延工程、焼成工程等の手順や、検査結果で得られたデータ等、生産プロセスをデータベース化。ノウハウを見える化することで設計の精度を高めている。また、職人のノウハウに委ねていた品質を一元管理することで、品質ムラの削減にも貢献している。蓄積したデータを活用することで、開発コストを抑え、顧客に最適な設計を提案することで付加価値を高め、同業他社との競争優位性を向上している。



一品一様のシーズヒーター製品

製販一体となった受注により、工場の稼働率を平準化

同社では、製造現場の稼働状況を営業と共有し、納期が重ならないように営業が納期の誘導を行っている。製販一体となって工場の稼働率を平準化することで工場の稼働ムラを最小化し、工場の生産性を高めている。生産現場では、ボトルネック工程の発生で生産の停滞が発生しないよう工夫を凝らしており、むり・むだ・ムラの排除で業務の効率化を図っている。このような取組みにより、同社では残業がほぼ発生しておらず、受注型企業における生産性の向上と働き方改革の先駆的な企業となっている。



生産現場における作業工程の様子

人材の能力を最大限活用する取組みで効果的に人材育成

地元の雇用創出に積極的に取り組む一方で、女性や障害を持つ人材も登用。本人の適性を見極め、適材適所に配置することで活躍を促している。人材育成では、工程ノウハウのデータベース化をOJTに活用し、自身の作業課題を見える化。全従業員で5S活動やむり・むだ・ムラの排除を徹底し、人材の能力を最大限活用する取組みで効果を上げている。先端設備の導入や各種展示会による商圈拡大、ブランド力向上策で企業価値を高め、高齢化や人手不足の課題に対応している。



ノウハウのデータベース化をOJTに活用

ものづくり